

かけはしコラム

9月号

家庭と地域との心の架け橋を目指し、

子どもとの関わり方の一助となる言葉を発信していきます

「結果」よりも「プロセス」に注目を!

コロナの感染関係なく、二学期が始まりました。ストレスの対処が上手な子は自分の本来の力を発揮しやすいかもしれません。一方、上手いかず結果が、振るわない子もいることでしょう…。



わたしたちは、子どもたちをほめる時、評価のしやすい結果や数字や順番に注目しがちです。「〇〇したから」ほめるとい

う事は、日常よくあります。結果も大切ですが、頑張ろうとするプロセスに賞賛の声かけをお願いします。いろいろな頑張りの場面に「いろいろあったけど、よく頑張ったね」「こけたけど、最後まであきらめず走れたね」「友達の分まで、ありがとう」マスクをしながら、聴こえる声で…。子どもたちは、激動する社会に適応し、柔軟に生きぬいていかなければなりません。コロナは私たちに多くのことを教えてくれます。条件付きの承認よりも、無条件の存在承認の声かけが、とても大切です。あるがままの「あなたが大切(たいせつ)」のメッセージを届けたいですね。

ほめる機会の少ない子には、小さい適応行動を描写するように、こまめに気にかけるということが有効です。プラスのまなざしが届けられることは、一番良いスタイルですね。怒られてでもよいので、かまってほしくて問題を起

こしがちです。さて、どちらのストロークの方が大人も子どもも心地よいでしょうか…。

「〇〇だね」とあなたの頑張りに見ているよ!の声かけと微笑みで充分です。白(ご飯)に赤い梅干しのように問題ばかり見るのではなく、当たり前の行動をしっかり見ていると、問題行動(赤い梅干し)で注目を集めることが減りやすいものです。夏休み明け、やる気スイッチが入りません。是非、冷えた心に温かい灯をお願ひします。これは、大人も一緒です。優しい言葉が、園と学校と地域に飛び交いますように…。

＜効果的なほめ方＞

あたり前にできていること

うまく行くためのポイント

〇のような時に…

いつでも効果的にほめる事が出来ますが

- ※ 見逃さない
- ※ 行動の後すぐ!
- ※ 一貫して! (問題ばかり一貫して注意するのはできますが、良い行動見落としがち)
- ※ 高い目標でほめる より

小さいステップから 積み重ねの大切さ

- ・ すでにできていることから
- ・ できつつあることをさらにもっと伸ばすために
- ・ 望ましい行動を身につけさせるために